

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	創業以来の、ホームの理念として「高齢者を人生の先輩として敬う」と明記されており、全職員が利用者個々のニーズを理解し人間性重視したケアが実践されている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員のプレート裏面にホームの理念が記録されており毎日のケアに活かされている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に対し「入居時の説明」「来訪の際」の説明。 地域に対しては「運営推進会議」等のテーマに盛り込み又、地域の方を行事に参加して頂き、理解と協力関係、構築の機会が増えつつある。	○	地域に対しては、当ホームの都合だけで、つきあいの輪を拡げる事は困難であり、時間をかけて、双方向の理解を深まりを、図る為の努力を継続して行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者と共に回覧板の受け渡しや散歩時の挨拶を心がけ、ホーム主催行事へのお誘い、町内会行事への参加で接点を増やす活動に努めている。 夏にホームで収穫した、「梅」ジャムに加工して近所に、おすそわけした所大変喜ばれたり、おつき合いの輪が、少しずつ広がっている。	○	「運営推進会議」の地域構成メンバーのアドバイスを頂いたり、地域との橋渡し役を、かって頂きながら、つきあいの接点を拡げる活動を取り組みたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、町内会行事(お祭り、高齢者対象の運動会等)への参加、地域の高齢者ボランティアを定期的に受け入れている。	○	町内会活動は、行事参加が中心で限定的である。 町内会役員が1年で交替する地域性もあり、交流の積み重ねが図りにくい面もあるが、一員として出来る役割を果たしたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等で地域の高齢者支援の取り組み等、運営推進会議町内会委員と話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が評価表に評価内容を記入し、集計を行う手順で最終の回答表を作成している。 評価の意義を理解し常時、有意義な改善への検討がなされ、日々のケアへ反映させる事を実践している。		
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	評価の状況及び報告を説明し意見交換も行われている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議の定期開催(年/6回)、連絡協議会などでの情報交換等サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要に応じて支援がなされている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	「高齢者虐待防止シンポジウム」「身体拘束O推進研修会」等々各種研修会に参加、他スタッフにも情報を共有し話し合いが持たれている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に時間をかけて入居者及び、その家族に対し理解しやすく十分な説明を行い、質問を受けつつ納得して頂く配慮をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者と馴染みの関係が構築されており、遠慮なく意見、不満、苦情を表出しやすい場がある。又モニタリング実施時に担当者中心に意見交換を行なっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月刊の「里だより」及び来訪時はもとより電話等、定期的に近況報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談・苦情受付の窓口を毎月の便りを通じ告知し、来訪時等、傾聴を心がけ反映に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例職員会議等で意見交換が行われている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	チーム内で協力のもと、状況に適したシフト作成を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	シフト調整を行い、入居者のダメージを最小限で抑えるよう支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各種「研修会」参加、業務を通じたタイムリーなOJTの実施、専門書籍の購入及び活用等、研鑽の場を提供されている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区や市の連絡協議会などで交流を深め活動につなげている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	「ストレスチェック表(厚生労働省「職業性ストレス簡易調査表」アレンジ版)」活用による自己診断と相談窓口の通知、希望の休日の組み入れ、有休休暇の活用、業務外の交流の機会(忘年会等)、喫煙場所の設置、同居の小動物との触れ合い、くつろげる和室の空間等。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	平成19年度より独自の人事考課制度「職資格等級評価」を導入。目的は正社員、パートタイマーの差別なく共通の評価、自己向上の年間及び中期達成計画を個別に立案、職制を超えて共有し、実現させる。 又、成果は、給料他の待遇に反映させる職能給により意欲向上につなげている。 19～20年度の新規取得の資格(介護職員総数/20名中、介護支援専門員/3名、介護福祉士/8名、認知症ケア専門士/5名の合格実績)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	職員全員が、介護技術向上と併せ、受容技術を磨き傾聴の姿勢を常に心掛けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の話しやすい環境づくりの上、受け止める姿勢で傾聴を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	話し合いを十分に行い、必要性の優先順位を見極めた上で支援の方向性を示す。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	生活歴や家族、医療・介護施設等の情報・意見を参考に、環境変化に伴う不安を軽減化し、職員や他の利用者との、馴染みの関係作りの支援を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者と共に生活をするスタンスで喜怒哀楽を共有し支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	負担にならない範囲で、ご家族には、ホームへ足を運んで頂き、家族の想いや立場を共有し連携の中、全職員一同の認識で支援を行う努力をしている。又、プラス面ばかりを強調するのではなく、利用者の変化を中長期の視点から客観的に伝える事も個々の状況により実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	誕生会、家族会、敬老会、日常の訪問時等で、絆を深めて頂く支援を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	古い友人の来訪や手紙・電話のやりとり、手紙の文面作成相談等での支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者で助け合い、支え合う場面が多々みられ家事労働においても、分担し楽しく参加される姿が見られます。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約修了のケースは少ないが、可能な限り気軽に相談が出来る様、つきあいを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、関係機関等の情報を基に、日々の生活ニーズを深く掘り下げ把握に努めモニタリングで検討し希望や意向に沿ったケアを図る。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	基本情報、関係機関ご家族等からの情報を元に把握に努め十分なアセスメントを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活、心身の状態の変化を含め、現状について職員個々の視点を集約し、介護記録・連絡ノートによって現状を明らかにしミーティング等によって情報の共有化を計っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者によるアセスメントを行い利用者本位のケアプランを作成し、定例の担当者会議によってモニタリングを行い、内容の検討及び共有化を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的、心身の変化の状況等、現状に即し適宜見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づき出来事等、介護記録・連絡ノートにより情報の共有を図り対策を講じケアの実践に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じて居室以外(和室)でも就寝できる対応をしており、入居前でも体験宿泊を行う等柔軟な対応を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域内消防所の指導を受け町内会の居住者参加で消火訓練の実施、南陵高校生(地域内)ボランティア学生の受け入れ、地域ボランティアによる演芸会(うた・日本舞踊等)の開催等を行いながら支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	通所リハビリの利用など入居者の必要に応じた支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じて話し合う機会を持っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、かかりつけ医の往診を受け、情報交換を密に行なっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域の専門医療機関で受診、相談できる体制にある。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が確保されており、医療機関との連携体制が構築されており、往診時には主治医と気軽に相談出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際には、医師との連携を図りホームの生活復帰を最優先としている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族やかかりつけ医との話し合いを持ち、先を見渡した方針を全員で共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医・看護職員との連携の下、チームとして支援に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	関係機関と情報交換を密に行なうよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人格を尊重した声掛け対応がなされ個人情報の保全が徹底されている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者本位に徹底し本人の意志を尊重する支援を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	コミュニケーションを図りながら個々のペースを大切に支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎朝の整容、TPOに合わせた服装の準備を支援をはじめ訪問理容、髪・服装・お化粧などに関心を引き出す工夫が行なわれている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り一人ひとりの好み、季節感、栄養バランス等を盛り込んだ食材の準備とメニュー表を作成している。食事の際は、下準備から片付けまで全員の役割分担により食事作りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	献立作りの際は、好み希望を参考に作成し、嗜好に沿って個別対応に心掛けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用しパターンの把握に努め自立支援に向け工夫を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴設定以外にも声かけを行い、希望に沿って体調に配慮し快適に入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人にとって最適な睡眠パターンの把握に努め良質の睡眠時間の確保により潤いのある日常生活を送っていただけるよう支援を行っている。 又、睡眠中は体動や体位の変化に注意するが、必要最低限の範囲で、安眠を妨げない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	主体性を尊重しつつ、QOLの向上を目指し、本人のニーズにマッチする内容を実現し、家事・ゲーム・買物等参加して頂く支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望に沿って個人金を所持し、買い物の機会を設けている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近隣への散歩、月単位の外出計画、食材の買出し等機会を設けている。	○	参加メンバーが偏らない様、計画内容を検討して実施する事。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	音楽イベント鑑賞、スポーツ観戦、家族との外食、ドライブ、お花見、家族会等のイベントを行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族、友人との電話のやりとり等、その都度希望に沿って支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	随時訪問できる雰囲気であり、状況に応じ居室、和室、居間等でくつろぐ姿が見られている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	セミナー・研修等に積極的に参加し、全職員が内容を理解し拘束ゼロの取り組みをしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の活動時間内(6:00～21:00)の施錠は行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者のQOL向上にむけ、主体的な活動を妨げない様、スタッフ間の見守り、連携により安全確認を実施。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤・消毒剤等の誤飲・誤食となりがちの物品は、利用者の見える場所に置かない様、目隠し等の工夫されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々の気づき、「ヒヤリハット」「事故」等の分析と、防止の知識を習得して事故防止に取り組んでいる。又、事故防止の対応に職員間の温度差がない様、日頃から、会議等で話し合われている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルを見やすい場所に設置されており、半数以上の職員が救命講習を受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難場所が近くにあり避難訓練の実施している。 又、ホームの避難訓練には、町内の近所の方の参加して頂き、「万一の場合は声を掛けてください」と、言っている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプラン更新時等状況に応じて都度、家族との話し合いを設けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定、日常動作、皮膚の異常等、「異常のサインを見逃さない」利用者の状況変化に職員共有の視点で対応記録し対処に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬事故のない様、利用者一人ひとり確実に服薬を確認。 薬の説明書は常に介護記録に保持され通読。変更時確認を徹底している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	朝食後の軽い運動、ラジオ体操等を組み合わせた取り組み実施。 排泄チェック表に状況の把握し個別に対応、水分量の確保、野菜摂取の取り組みを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	定期的に訪問歯科検診を行い衛生士の指導を受け衛生保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養摂取は、バランスの取れた食事メニューと食事の摂取状態観察、定期の体重測定で推移確認。 水分チェック表にて状況を把握し、確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	消毒の徹底(ドア・便器の消毒を実施毎にチェック表へ記録)、換気の励行、食品の管理、手洗い、うがいの励行他、「感染防止マニュアル」に沿った対応がされている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具の消毒の徹底。新鮮な食材の確保、冷蔵庫内の食品賞味期限管理、買いための禁止等を徹底されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	業務内容が理解できる表示があり季節感を持たせた雰囲気作りを心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに調度品を工夫したり、程よい照明、園芸・装飾品の配置、ペット(猫)も飼われており、家庭のしつらえに気を配っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂、居間、和室、サンルームと夫々ゆったりとした空間があり、状況に応じて過ごす場所を選択することが出来、寝転ぶ事もできる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	その人らしさを表現する生活空間であり、「利用者の主体的な空間」として「快適に安心していられる場」として活用されるよう支援されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、温度・湿度チェック表により、確認された適温・適湿が保たれ、利用者に最適な空間となるよう対応がなされている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の身体機能変化に応じて、立位確保がスムーズに行なえるよう手摺りの設置、段差の解消を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	見当識を強化し混乱を招くことのないよう本人に分かる目印(トイレ・食堂・浴室・居室等)、月日や季節の分かる暦、職員の名札等の工夫がなされている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭の家庭菜園、園芸、休憩コーナーが設けられ自由に行き来できるように配慮されている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

日本家屋の作りで庭も広く、公園が隣接しており季節の移り変わりを肌で感じる環境の中、昨年より一員となった猫が暮らし始め入居者間を和らかにするパイプ役となり生きがいのなった方もおられスタッフもストレス緩和になり、和気藹々ゆったり過ごされている。